



2024

1 月号

第404号

# 真宗大谷派京都教区 教化広報誌 教区だより

Shinran  
500th  
SS00th

—金剛童子—  
南無阿弥陀仏  
人と生まれたことの  
意味をたずねていこう

今月の「ことば」

誰でも

死にます

だから

今の生が

問われる

今月の「ことば」は、教区駐在教導が担当しています

## CONTENTS

2・3面

今、この時に、親鸞聖人に会う

長浜教区第24組 美濃部 俊裕 氏

山城第1組 磯野 恵嗣 氏

4・5・6面

特集 自主学習会

近江第26組 堅田 一葉 氏

近江第7組 浅野 真 氏

山城第2組 小山 大来 氏

7面

教務所からのお知らせ

イマダカラ

8面

今月の行事予定

京都教区内の風景をお届けしています。『教区だより』では表紙写真の募集を行っております。詳しくは教務所（教区駐在教導）までお気軽にお問い合わせください。

# 今、この時に、 親鸞聖人に遇う



## 教区改編に思う

長浜教区第二十四組 来入寺住職  
美濃部俊裕

教区改編により来年度から京都教区の仲間となります。どうぞよろしくお願ひします。

四十五年前、長浜教区では別院離脱問題に直面しました。この問題は我々住職・寺族にも関わる課題でありました。強い教化者意識、広い意味での貴族体質、寺の私有化といった課題です。別院離脱問題をきっかけに、教区で「寺を開く」をテーマに取り組んだのが

- 一、寺の役員は公選によって選ぶ。
  - 二、月例役員会を開催する。
  - 三、同朋会を開催する。
- でした。道半ばですが、このことによって寺と門徒が共に手を携え進んでいくことがいかに大切であるかを学びました。

京都教区の方から教えていただいたのが「高島秋講」でした。私は琵琶湖の北部に住んでいます。こんな近くにもこの講座の存在

を知りませんでした。この度参加させていただき、ご住職や坊守さん、ご門徒の方々が熱心に受講しておられる姿を目の当たりにして大きな刺激を受けました。長浜にもこのような講座が開設できたらいいなと話合っています。

私は学生時代に受けた教師修練終了日の座談会で、道場長の和田稠先生に対して「先生はたすかったのですか」と無茶な質問をしました。先生は正座し直して「おかげさまで」とおっしゃいました。今思い返しても冷や汗が出てきますが、教えに生きている人が目の前におられることに驚き「よし自分も学んでいこう」と決意した瞬間でした。

その後、門徒さんと本廟奉仕に行った時、教導の先生が廊下を歩きながら私に「住職というのは一生かかって一人の念仏者を生んだらよいのです。その一人というのはあなた自身です」とおっしゃったことが忘れられません。また「親鸞聖人の教えはどこにあると思いますか。本山に行ったらあるのでも『真宗聖典』にあるのでもない。教えにうなずいた人のところにあるのです」とおっしゃったことも思い出されます。



本願寺別院大通寺（長浜別院）

毎月の同朋会に参加されるご門徒さん方がおられますが、坊守は「ごえんさんを育ててやろうと思つて来てくださっている」といいます。本当にその通りだと思います。

「悪性さらにやめがたし。こころは蛇蝎のごとくなり。修善も雑毒なるゆえに。虚仮の行」とぞなづけたり」

以前から気になっていた和讃です。「自分自身に本来具わっている悪性は捨てがたい。善心は蛇や蝎のようである。善い行いをしていても思いが毒が雑ざっている。それ故に偽りの行為と名づけられた」といった意味だと思ひます。親鸞聖人が善鸞を義絶された後、聖人八十五歳の頃に書かれたといわれる「愚禿悲歎述懐和讃」の一首です。門弟に慕われ敬われる存在になつていかに違ひない聖人が心の内をそのまま吐露されています。

私自身は、恥ずかしながら何をしても「名聞・利養・勝他」を離れません。古希の歳を迎えても、何も変わらないのだなと頷かざるを得ないこの頃です。人前ではわかつたような顔をして話している私ですが、ご門徒と共に歩む気持ちをお忘れずいたいと思ひます。新京都教区の同朋として、よろしくお願ひします。

# 今、この時に、 親鸞聖人に 会う



## 師友に会う

山城第一組 新道寺衆徒 磯野 恵嗣

十一月二十三日に「はじめての報恩講―東本願寺で子ども会―」をテーマに子ども報恩講のつどいが開催されました。私は、昨年よりスタッフとして関わらせていただいているのですが、全国から集まった子どもたちとともに親鸞聖人の前で手を合わせるありがたい時間が胸に染み入ります。そのあと子どもたちは、同朋会館の遊びブースや白州のバルーンで遊んでいたのですが、余程楽しんでもくれたのか参加者の子どもが「また明日も来たい!」と言ってくれました。それを聞いて楽しい時間を過ごしてくれたことにスタッフみんなが嬉しい気持ちになりました。終わって片付けをしていると、少し寂しくもなりました。十一月二十三日は祝日ですので、お出かけの色々な選択肢がある中、本山に集まって小さな求道者とともに手を合わせ、仏法に耳を傾けられたことは本当にありがたいことだったと改めて

思いました。

私は、教学研究所の教化伝道研修に四期生として参加させていただきました。二〇二二年の五月から約一年半、全国から集まった研修生とともに三泊四日の研修を六回行います。基本的には同朋会館で行われますので、北は北海道から南は鹿児島まで飛行機や新幹線を乗り継いで京都に集まってこられます。その日のうちに到着するのが難しいということで前泊して来られる方もたくさんおられました。あ

る時、ふと研修の中で座談をしている時に気づいたのですが、全国から集まっていますので、ほぼみんな方言が違うのです。それだけたくさんの方々が、日々それぞれが思い悩みながら、歩みを進めている仲間にあわせていただき、たくさん学ばせていただきました。

私は、京都の真宗の寺の次男として生まれ、お寺で三十一年間生活をしてきました。しかし、次男であったことから、子どもの頃には自分が今こうしてお寺で生活し、このようにご縁をいただいで、色々な人と関わらせていただくことは想像もしていませんでした。もちろんこうして教区だよりに書かせていただくことになるとは、夢にも思いませんでした。本当にありがたいことです。しかし、自分の歩みを振り返ったとき、それは決して積極的なものではありませんでした。子ども報恩講のスタッフも先輩に誘われてなんとなく始めましたし、教化伝道研修についても京都教務所の駐在教導さんに「こういう研修があるんやけど、受

けてみない?」と声をかけていただきました。少し目を離せば、すぐに腰を下ろして歩みを止めてしまう私に、ずっとずっと呼びかけてくれている方々に、もうすでに遇わせていただいていたことに気づかされました。本当にありがたいことで、頭が下がります。しかし、しつこいようですが、少し目を離せば、すぐに腰を下ろして歩みを止めてしまう私です。ずっとずっと呼びかけてくれている中で、これからも、色々な人と関わらせていただきながら、学んでいければと思います。



## 特集 自主学習会

各地で行われている自主的学習会。講師を立てたり輪読会形式だったり、会所持ち回りだったり教区会館で行われたり、形式もさまざま。今回は三箇所の自主学習会の取り組みを、参加者のみなさまにご紹介いただきます。

### 間に生きる — ともにの世界 —

近江第二十六組 慈敬寺坊守 堅田 一葉

会の名前は「思惟会」です。

湖西地区近江第二十六組では、団塊ジュニア世代を中心とした学習会を開催しています。毎月一回開催を目標に八月で九年目を迎えました。学習会では、開催当初より『宗祖親鸞聖人』をテキストに、『法語から読む宗祖親鸞聖人』をサブテキストにし、今年度から二週目となる輪読と座談をしています。また、その他の活動は本廟奉仕団への参加、会報の発行、懇親会などを実施しています。

思惟会の名前には、私の事実を認め、ありのままに受け止めていくというねがいが込められています。

いろいろな色の命を生きている私達が宗祖親鸞聖人のみ心とお言葉を間とすることで、同じ世界を訪ね、横並びの関係に身を置き、様々な問いを確かめ合っている時を、ともにする事ができる場が、尊いことなのかと思います。



毎月の学習会は、宗祖親鸞聖人のみ心とお言葉を皆で共有し確認し合える大切な時間となっています。また座談では、日常生活の近況報告、お寺が抱える課題、またご門徒の参加者からはいろいろな思いなど、同じ世代同じ地域に住まう者ならではの情報交換も楽しみの一つです。そして何より、宗祖親鸞聖人のみ心とお言葉を間にし、自分の言葉で語ること、他者の言葉を聞くことを通し、改めて自分の思いに立ち帰り、問い直すことができます。

貴重な場となっています。

私は、学習会で輪読しているテキストをきっかけに、宗祖親鸞聖人を始めたくさんのお言葉にであえています。

過日のことです。

私なりにお聖教のお言葉に触れている時、解釈に迷う所がありました。私は直ぐにお念仏の友に「先生になって教えてほしい」とお願いしました。すると「一緒に歩きたいです。一緒にお言葉を訪ね、一緒に聖典にあたり、一緒に読んでいきましょう。」と答えてくださいました。私はその言葉に嬉しく思えた反面、ただ解釈に迷っていた箇所の答えを都合よく求めたのではないかと恥ずかしくなりました。

「ともに」とは一般的には同じ状態や同時にと理解しますが、おかげ様にて私達には、宗祖親鸞聖人のみ心とお言葉を間として開かれる共通の世界があります。

宗祖親鸞聖人のみ教えが身近にある、お寺という場に身を置かせていただいている私ですが、閉じ込められた私の世界で考え生きようとしてしまいます。しかしこの現実生活のままに宗祖親鸞聖人のみ心とお言葉を聞き続け、問われ続けている事で、私を深く見つめ「一人の尊さ」を確認していく毎日を送れるのかと思います。

これからも、同じ地域の同じ世代の仲間達とともに、宗祖親鸞聖人を間にみ心とお言葉にであい「ともに」生きる私にであい続けていきたいと思えます。

## 真宗と出遇い直す輪読会

近江第七組徳應寺衆徒 浅野真あきのまこと

近江第七組輪読会では、毎月一回集まり、真宗にまつわる本をテーマに話し合っています。ここでは、本の作者との対話、親鸞聖人の著作をはじめとした聖教との対話、そこに集まった人との対話があります。

私は、本を頼りに話し合うことにある種、怖さを感じていました。自分の浅はかな知識に依った言葉で、話す事に果たして意味があるのかと。けれども、それは、恐らく誤りであったのではないかと気が付きました。人の話す内容に貴賤はあるのか、そこを価値判断する基準は誰がしているのかと。全ての人々を御同朋とし、人々と語り合われてきた親鸞聖人は、そのように思われていなかったのではないかと思います。私は勝手に、聖教という正しいものを正しく理解している人しか話してはいけないのだと思っていることに気づきました。「正しい」とは、「正しき」とはなにか。「わかる」とはなにか。「わかった」ことに意味はあるのか。「意味がある」とはなんなのか。たくさん問いが生まれました。

輪読会で読む本は、集まった方々で決めるので、私が出遇わない本に出遇うことができます。現在、輪読している『人生を丁寧生きる』念仏者のしるし（大江憲成著）で私の心に残っている所があります。

にあるのであって、それ以外に具体性はないわけですので、現実生活のなかから大切なものを掘り起こし出会うべく作業をしていくこと。これが聞法の姿勢であります。

聞法の生活には、申しましたように、師と友とが最も大切です。

だから高度な議論をするというよりも、日常私たちの生きていることを掘り起こして仏法のことばを証明していくのです。」

正に、今、輪読している本によって、この輪読会の意義を教えていただくことになりました。本当に、不思議な出遇いであると感じました。このように、本の中で心に残ったところも、一人で読む時と輪読する時とで、変わることがあり、それが輪読会の醍醐味だとも感じております。

輪読会で出遇う、善知識であり、御同朋の皆様との会話の中で、様々な問いが立ち上がってきました。聖教には普遍性がありますが、それを感じる人間にはどうしても時代性が伴ってくると思います。「今」という時代を生きながら、大きな流れに没しながら生きる中で感じた事、自分の生きた中で起こった出来事を例に話し合うことで、より身近に本を、聖教を感じられるようになった気がします。ある意味、自分の手から離れた遠い存在であった真宗というものが、血の通った、温かみのある、生きた何かに感じられるようになった気がしました。「今」を生きる人が語り合うこと、これが聞法の根本であり、教え



を人々に取り戻す作業なのではないかと思えます。輪読会に参加することで、「生きる」という営みは何なのかということ、問い続けられるように思います。私は、これからもこの輪読会に参加させていただくことで、教えに身を浸していきたいです。

## 山城第二組 仏教青年会の活動

山城第二組 圓重寺住職 小山大来

山城第二組では、三年ほど前から仏教青年会の活動に力を注いでいる。同組では、長らく青年会の後継が課題として挙がっており、数年前までは満足に活動が出来ていない状態であった。しかし、これまで地方に出ている各寺院の後継者が自坊に戻ってきたことで、近年、本格的に同会を復活させ、活動再開に至っている。

現在は、学習会、フィールドワーク、声明作法、書道教室、講演会、清掃奉仕、報恩講、さらには家族を含めた懇親会など活動内容は多岐にわたる。その中でも、特に力を注いでいるのは「学習会」。輪読会のような形で、ふた月に三回ほどのペースで進めており、会員の寺院を会処に持ち回りで開催している。

参加者は皆、学びたいものがそれぞれであり、開催当初は何を学びたいか色々な意見が出ていたが、集まる会員たちの教学への理解は様々。わからない人でも一緒に学んでいけるよう、そして教えを一からしっかり学んでいけるように、まずは皆に馴染みのある「経典」から触れていくこととなった。

二〇二一年度から始めた記念すべき最初の内容は、私たちにとって最も身近な『仏説阿彌陀經』。そして翌年度には『仏説觀無量壽經』をそれぞれ一年ずつかけて読み進めていった。

しかし、当然、読み進めていけばわからない

ことがたくさん出てくる。皆で意見を出し合って理解を深めることができればいいが、必ずしもすべてを補えるわけではない。その対策として、青年会の年内最後の活動である報恩講の際には、大谷大学で教鞭をとられている先生方に学習会の総括となるご法話をいただき、さらにその後は座談会を開いて、学習会での学びをより深める工夫を行っている。

学習会の後には、必ず引き続いて茶話会を開き、各々が抱えている悩みや、寺院への不安や疑問など自由に話をしていく。ただ堅苦しく勉強するだけではなく、何気ない会話の時間を設けて会員同士のコミュニケーションをはかるように心がけている。そのような会話から新たな活動が生まれる場合もしばしば。

茶話会は情報の交換、並びに共有、そして新規活動の提案をする貴重な場にもなっている。

また、年に一回は「虚空学習会」として御所内の原っぱで昼食を取りながら、学習会を行っている。普段とは異なる環境で学習して皆のモチベーションが下がらないようにする。これも学習会ならではの工

夫といえるのではないだろうか。

思い立って始めた学習会だが、おかげさまで三年目を迎え、常に六〇八人ほどが参加して和気あいあいと楽しく経典を読み進めている。今年度から浄土三部經の最後をかざるべく『仏説無量壽經』を読み出したが、まだ冒頭である四十八願の内容に入ったばかり。分量のある経典だけに、これまでの二つの経典と違って読み終えるのに二〜三年はかかるだろうか。しかし、音を上げることなく工夫をこらし、これからも会員の皆と共に教えるに触れていきたいと思う。



### 教務所からのお知らせ

#### 【敬申】

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。〔敬称略〕  
・近江第九組教照寺 住職 那須 光章 七十七歳 二〇二三年十一月三日

#### 【教務所閉所、年末年始の事務休暇のお知らせ】

一月二十二日(月)、二十九日(月)は、改編に伴う備品移動工事のため教務所を閉所いたします。また、左記の期間は、年末・年始事務休暇として教務所を閉所いたします。ご承知おきください。  
二〇二三年 十二月二十八日(木)より 二〇二四年 一月五日(金)まで

緊急の場合は、教務所携帯電話090-3719-7982までご連絡ください。

### 教化伝道冊子『土着した親鸞』発刊のお知らせ

教化推進本部出版部会の事業として「教化伝道冊子」を発刊する運びとなりました。

本誌『教区だより』は、教化広報誌として発刊されてきました。教区の状態を広報するばかりでなく、教えに触れた方々の思いを媒介し、教化伝道の種となることを願いとしていきます。本誌にてこれまで連載してきた原稿や、公開講演会の講演録を編集し、適宜発行してまいります。

その第一弾として、二〇〇九年四月から二〇一一年三月まで二年間掲載された、大桑斉氏の「土着した親鸞」を冊子化することとなりました。時代を越えて親鸞聖人の声を聞き、出遇われた人々の姿を、丁寧にご紹

介いただいています。二〇二〇年四月、大桑氏は還浄されましたが、今般の発刊にあたって「土着した」との重み、内容を課題提起といただき、我々の歩みを確かめて参りたいと存じます。

教区内全カ寺に発送のほか、二百部限定で在庫がございます。聞法会で配布するなど、ご入用の方は、京都教務所までご連絡ください。販売はいたしません。ご懇志は謹んで拝受いたします。(担当・赤松)

（担当・赤松）



気づけばもう一月である。毎年「あつという間でしたね」と言って年を越している気がする。昨年を振り返ってみると、様々なご縁があった一年であった。

お参りに行った際に小・中学校の同級生と再会した。それを機に、今まで全く会わなかった同級生たちと次々に再会した。ついには小学校時代の担任の先生にまで再会した。

また、ご門徒のお通夜の際、子どもがお世話になった施設からお花が届いていたのでそのことを尋ねると、その施設に勤めておられるとのことだった。お話を聞いていくと、子どもがお世話になっている病院の先生(一人)と同級生であること、さらに子どもが生まれた際に担当して

くださった先生が指導医で、大変お世話になったとのことである。

不思議なご縁を感じる一年であったが、「ご縁」ということを考えるようになったのも、仏法との出遇いがあつたからではないかと思う。お寺に生まれながらも、仏法を聞くようになるまでは、随分時間がかかったように思う。しかし現在では、「三帰依文」において「仏法聞き難し、いますでに聞く」と説かれ、「百千万劫にも遭遇うこと難し」というほどの貴重なご縁をいただいているのである。

仏法を聞いていくということは、本当に難しいと感じている。しかしながら、これは貴重なご縁なのだと思えて胸に刻み、新たな一年を過ごしていきたいと思う。(出版部会 井上至)

### 編集後記 The editor's note

先日、「是旃陀羅」問題に関する教区説明会(対象：教化推進本部関係者及び部落差別に学ぶ同朋協議会委員)に出席した。解放運動推進本部職員の説明を聞いて、今春の慶讃法要で出あった「南無阿弥陀仏に呼び

さまされて、考えることをあきらめない」という言葉を思い出した。問いかけをうけて、まず、私自身が考えていくことを大事にしたいとあらためて思う。是旃陀羅問題学習テキスト『御同朋を生きる』の発刊が待ち遠しい。

(出版部会 比叡谷真)

# 京都教区 1月の行事予定

## 教区・地区・関係団体事業

|        |             |                           |                  |
|--------|-------------|---------------------------|------------------|
| 10日(水) | 9:30～15:30  | 坊守会 基礎講座                  | 教区会館 2階 大講堂      |
| 10日(水) | 16:00～18:00 | 准堂衆会 声明会                  | 教区会館 3階 研修室      |
| 13日(土) | 13:30～16:00 | 男女両性で形づくる教団を目指す研修会 (石見地区) | 石西組 浄慶寺 (島根県浜田市) |
| 19日(金) | 13:00～15:00 | 准堂衆会 女性声明講習会              | 教区会館 2階 大講堂      |
| 20日(土) | 14:00～18:00 | 拾学舎 講師 竹橋太氏・松田憶氏 (Zoom開催) | 教区会館 2階 大講堂      |
| 24日(水) | 16:00～18:00 | 准堂衆会 声明会                  | 教区会館 3階 研修室      |
| 25日(木) | 15:00～18:00 | 准堂衆会 研修会                  | 教区会館 2階 大講堂      |

## 教区諸会議

|        |             |                             |              |
|--------|-------------|-----------------------------|--------------|
| 11日(木) | 13:30～16:30 | 教化推進本部 出版部会 (Zoom会議)        | Zoom         |
| 15日(月) | 14:00～17:00 | 新教区 教化方針策定協議会               | 長浜教務所        |
| 18日(木) | 13:30～16:30 | 新教区 準備委員会 常任委員会             | 教区会館 2階 大講堂  |
| 21日(日) | 14:00～17:00 | 青少年 改編懇談会                   | 長浜教務所        |
| 25日(木) | 14:00～16:00 | 共同教化部会 (仮称) 地区・組 巡回懇談会 湖東地区 | ハーティーセンター 秦荘 |
| 26日(金) | 13:30～16:30 | 教化推進本部 共同教化部会 (仮称)          | 教区会館 3階 会議室  |

## 教区別院事業

|        |             |                                    |       |
|--------|-------------|------------------------------------|-------|
| 1日(月)  | 8:00～9:00   | 岡崎 修正会                             | 岡崎別院  |
| 1日(月)  | 9:00～12:00  | 伏見 修正会                             | 伏見別院  |
| 1日(月)  | 14:00～15:00 | 山科 修正会                             | 山科別院  |
| 1日(月)  | 14:00～15:00 | 大津 修正会                             | 大津別院  |
| 1日(月)  | 8:00～9:00   | 赤野井 修正会                            | 赤野井別院 |
| 5日(金)  | 12:00～13:00 | 赤野井 定例法要 (教如上人) 法話 輪番 中川眞 師        | 赤野井別院 |
| 10日(水) | 14:00～19:00 | 伏見 同朋会                             | 伏見別院  |
| 10日(水) | 13:30～15:30 | 山科 同朋の会 報恩講 法話 赤松崇麿 師 (教区駐在教導)     | 山科別院  |
| 15日(月) | 14:00～16:00 | 山科 定例法話 法話 井上至 師 (山城 法泉寺 第2組)      | 山科別院  |
| 21日(日) | 14:00～16:00 | 大津 同朋の会 聞法会 法話 齊藤恵果 師 (近江 正覺寺 第4組) | 大津別院  |
| 27日(土) | 14:00～16:00 | 伏見 伏見別院 ご命日のつどい 法話 輪番 篠岡誓法 師       | 伏見別院  |
| 27日(土) | 12:00～13:00 | 赤野井 定例法要 (宗祖親鸞聖人御命日逮夜) 法話 輪番 中川眞 師 | 赤野井別院 |

**教務所年末・年始休日のお知らせ** 1月5日(金)まで ※年末・年始休日のため事務休止といたします。

**教務所 事務所閉所のお知らせ** 1月22日(月)・29日(月) ※改編に伴う備品移動、工事のため事務所を閉所いたします。

### 第8回「教勢調査」2024年1月1日開始!!

社会状況に即した宗門の課題を把握するため、すべての寺院・教会を対象に、宗門の現勢と教化活動の実態を調査します。同朋会運動のさらなる推進のため、全寺院・教会からの回答をお願いいたします。

設問にスムーズに答えられるインターネットからの回答にぜひご協力ください。

(インターネットでの回答ができない場合は、紙の調査票を送付します)

※調査に関する詳しいお知らせは『真宗』2024年1月号(12月末到着)をご覧ください。

【調査に関するお問い合わせ】真宗大谷派企画調整局 【TEL】075-371-9208 【E-mail】ksr8@higashihonganji.or.jp

12月末、回答用ホームページへのURL・二次元コード(QRコード)を記載したハガキを全寺院・教会宛に発送します。必ずご確認ください!!



真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

『教区だより』第404号

【発行人】篠岡誓法(真宗大谷派京都教務所長)

【発行所】真宗大谷派京都教務所

〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入

Tel:075(351)5260 Fax:075(351)5256

【表紙の写真】きつと咲く(石東組 善徳寺 河野恵嗣)

発行日 2024(令和6)年1月1日

メールアドレス: kyoto@higashihonganji.or.jp

真宗大谷派 京都教区 Webサイト

https://www.k-kyoku.net

京都教務所

検索

